

閉会の挨拶



小泉 明（日本医学会副会長）

閉会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。第127回日本医学会シンポジウムは、「医学・医療安全の科学」をメインテーマとして開催し、ここに滞りなく日程を終了いたしました。

メインテーマそのままに、医学と医療の両面にわたっての安全の課題を、科学として取り上げました。医学の面では、最近の医学研究の著しい進歩の中から、特に遺伝子工学実験、病原微生物の実験、クローン胚の研究のそれぞれについて、研究がもたらす便益と危険の現状、さらに今後の課題が論議されました。

医療の面でも、その便益に対する期待が大きくなるにつれて、リスクの課題もまた大きくなるのが、多面的かつ具体的に論じられました。

さらに医療安全について、工業技術の経験

から、工学面の方々からもご意見をいただき、さまざまな考察が加えられ、多くの提言がなされました。それは医療安全へのシステムの分析と対応の必要性として受け止められ、標準化やシミュレーションがキーワードになって熱心に論じられました。

このことは総合討論でも集中的に論じられ、高久日本医学会長から医療安全学会を設けるとのご提案までいただくという、大変盛り上がったシンポジウムになったと思います。

終わりに、この有意義なシンポジウムの企画・運営にあたり、ご尽力いただきました組織委員の清水、永井、飯塚、上原の各先生と、内容の濃いご報告をいただいた演者ならびに指定発言者をはじめ、ご参加のみなさまに敬意と謝意を表して、この会を閉じることいたします。どうもありがとうございました。